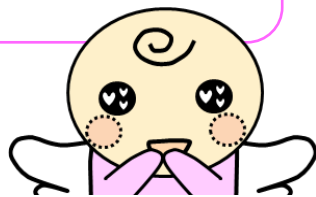




## 祝！緑綬褒章 浦安市手話サークル 青べか

長年にわたり社会へのボランティア活動を行い、著しい実績や結果を残したとされる緑綬褒章を、浦安市手話サークル「青べか」が受章しました！



この度、浦安市手話サークル「青べか」が緑綬褒章を受章できましたことを心より感謝申し上げます。

まずは、これまでの長い月日を当サークルと共に歩んできた、聴覚障がい者の皆様に敬意を表します。

また、千葉県聴覚障害者協会や千葉県手話サークル連絡協議会をはじめとする、様々な関係団体の皆様、これまで当サークルに対して多くの御支援御協力を賜りました全ての方々に厚く御礼申し上げます。

当サークルは1980年(昭和55年)12月に発足し、今年で43年目を迎えました。サークル設立に携わった2名の方は今でも会員として活動しております。この43年間に紐解くと、まさに山あり谷あり、手話ブームによって会員数の増減を繰り返し、社会の変化に伴い継続が危ぶまれることもありました。その度に「手話はろう者にとって大切な言葉である」ということを胸に刻み頑張ってまいりました。

現在まで、当サークルの灯を絶やさずに続けることができたのは、諸先輩方をはじめ、会員皆様の努力の賜物であると感じております。

私が会長となった令和の時代、新型コロナウイルス感染症の影響で思うような活動ができず悩み苦しい日々が続きました。しかし、設立から43年間、会員一人ひとりがその歩みを止めずに活動を行ったことが、緑綬褒章という形で社会にも認められたのではないかと考えております。↗

浦安市では平成30年に「浦安市手話言語等条例」を制定し、聴覚障がい者と手話等について理解し、全ての市民が心豊かに共生することができる地域社会を目指しております。

当サークルとしても、手話を学び、手話の知識がある者として、手話の普及の促進に協力していく所存でございます。

日本でデフリンピックが開催される2025年(令和7年)に当サークルは45周年を迎えます。

今後も当サークルの名称※「青べか」のように、「くたくたで不格好」でも身の丈に合った地道な活動を10年、20年、50年と続けていきたいと思っております。

これからも皆様からの御指導御鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

浦安市手話サークル「青べか」24代会長 橋詰信一郎

※「青べか」名前の由来はかわら版102号をご参照ください



### 【目的】

聴覚障がいのある方との交流・親睦を図る中で手話を学び、お互いの問題を話し合い、活動を共にすること

### 【特徴】

誰でも受け入れること。真の共生社会を実現する年齢・国籍(人種)・障害の有無等、全て制限はない。障がい者、子ども、高齢者、外国人等、様々な会員が参加

### 【令和5年度の運営方針】

サークルに参加する全ての者が、お互いの人権・人格を大切に、支えあい、共に生きる「真の共生社会」の実現に向け、サークル活動を実施する。

## 第13回秋穫祭に行ってきました！

11月12日(日)、秋穫祭へ行ってきました。「新しい手話の紹介」では、全日本ろうあ連盟発行の標準手話ハンドブックシリーズから、『慣用語』の手話表現のレクチャーがあり、ハンドブックは飛ぶように売り切れ。午後からの参加者は要予約となってしまうほどの人気でした。他にも「みんなのデフリンピック」の上映会や、手話コーラスのパフォーマンス、デフリンピックアスリートのミニ講演と、ステージも盛りだくさんの内容でにぎわいました。

中でも「らいおんぐるーぷ発表」では、利用者さんや職員へのインタビューと映像で、日々の様子を楽しくわかりやすく紹介。利用者さんの作った品々も目を見張る作品ばかり。サツマイモや野菜など畑の作物もたくさん販売されました。後援会からは毎年恒例の干し椎茸も。中でもこの日のために製作したというオリジナルチャリティクッキーは、お土産にあげた家族にも大好評！またぜひ食べたいおいしさでした(^▽^)/



## 手話を広める知事の会 総会へ参加

11月15日(水)、手話を広める知事の会及び手話言語フォーラムに参加してきました。(会場:霞が関 灘尾ホール)

鳥取県で全国初の手話言語条例が制定されてから10年。現在では全国で506もの自治体にて条例が制定されているそうです。総会で鳥取県知事平井会長は、終始手話を伴う挨拶を披露し、手話言語法の制定を目指して頑張りましょうと呼びかけられました。2025年、東京で開催されるデフリンピックへ向けての呼びかけも随所に見られ、「みんなのデフリンピック」も上映されました。

手話言語フォーラムでは、「鳥取県の条例制定から10年の軌跡」の講演があり、大変勉強になりました。また、パネルディスカッションでは全日ろうの石野理事長から、「私たちにとって理想の共生社会とは」、日本で2番目に条例を制定した神奈川県からは「神奈川県における手話推進の取り組み」、2025年デフリンピックマレーシア選手ホストタウンの埼玉県三芳町からは、「手話言語条例の取り組みとデフリンピックホストタウンまでの過程」と題したミニ講演もあり、とても興味深いお話でした。

日本で初めて開催されるデフリンピックは2年後の11月15日～26日。それにちなんで今年、東京都では原宿の ECO FARM CAFÉ 632とコラボしてコンセプトカフェを期間限定オープン。デジタル技術を活用した新しいコミュニケーションを体験できる、話題の「みるカフェ」に行ってきました。

## 原宿「みるカフェ」

東京2025デフリンピックまであと2年！



第3回役員会議 11月11日開催 ビデオ会議 ・デフリンピック気運醸成 ・南総地域を訪ねて  
・優生保護法問題 11.1集会に参加して ・かわら版について 他

県サ連ホームページ <http://www.kensaren.sakura.ne.jp/>

発行：千葉県手話サークル連絡協議会 責任者：外口晴久